

ネットくりはら ネットトリは ワズム ク



体験者が増えれば、暮らしはもっと面白くなる。

くりはらツーリズムネットワークは地域資源を活用した体験プログラムを主体に、研修や企業の視察の受け入れ、民泊、旅行会社のツアーのお手伝い、地元産品の販売などの事業に取り組んでいます。

昨年は体験交流プログラムを130回ほど開催しました。「団体の会員さんが先生となり、会員さんのご自宅や公共施設の実習室をつかって、料理教室などを開催しています」と語るのは、事務局長の大場寿樹さん。

昨年は2181人の方が参加されたという。そのうちの約7割は栗原市内の方だ。「10町村が合併して誕生したまちですが、生活圏は狭く、意外と隣の町の文化を知らなかつたりするんですよ」。栗原市近隣の登米市、大崎市、仙

主な活動

体験交流プログラム

陶芸教室、トレッキング、そば打ち体験、温泉バスツアーなど盛りだくさん。

くりはら博覧会“らいん”

一定期間内に栗原市内の各地を会場にして複数の体験交流プログラムを実施するイベント。

くりはら復古創新プロジェクト

相次ぐ震災で破損した長屋門などをワークショップで修復しながら、昔ながらの業を学び合う。

藍の手プロジェクト

正藍冷染は農家の女性が自給するための民の文化。正藍冷染の制作プロセスの一部を体験しながら藍染と地域を学ぶ。

栗原手づくり市「十文字商店」

栗原に息づく「まで」(丁寧)な暮らしの魅力を販売という方法で伝えるイベント型のお店。



台市からもリピーターが多く参加されているとか。「家の中だけでやっていることを、くるっと外にむけると暮らしがすごく面白くなるんです。僕らの世代は勤めに出ないと生きていけないなつたので、身体を使う仕事で継承されていない。無形の文化に光をうまくあてることで、充実した暮らしを営んでいければと思います」。

長屋門



栗原市内に500軒以上存在する「長屋門」。

暮らしの中に当たり前のよう存在する長屋門。他の地域ではなかなか目にすることができない貴重な地域資源です。

長屋門は諸大名の武家屋敷門として発生した門形式で、江戸時代に多く建てられました。諸大名は、自分の屋敷の周囲に、家臣などのための長屋を建て住まわせていたが、その一部に門を開いて、一棟とした物が長屋門の始まりです。門の両側に門番や仲間部屋が置かれて、家臣や使用人の住まいに利用されていました。